

高等学校におけるメディカルサポート環境の現状と可能性 - 現場で活動するアスレティックトレーナーに着目して -

The present situation and prospect of medical support in high school,
focus on athletic trainers.

1K06B100

指導教員 主査 原田宗彦先生

坂崎 久美子

副査 中村千秋先生

【研究背景・目的】

高校生は、身体的に成熟してきており、スピードやパワーなどの能力やパフォーマンスも飛躍的に向上する。しかしその反面、自分の身体が負荷に耐えられなくなることから、様々な外傷・障害の発生率も非常に高くなる。しかし、筆者が経験した高等学校の現場では、選手自身はもちろん、指導者も救急救命に関する知識を十分に習得した人間が現場にはおらず、医科学的サポートの環境があまりに整っていない。

本稿では日本の高等学校におけるメディカルサポートの現状を明らかにし、今後どのようにメディカルサポート環境が展開し成熟していくべきかを考察することが目的である。

【研究方法】

2009 年 12 月初旬から中旬にかけて、現在もしくは過去に高等学校の運動部活動において医科学的な面からのサポートを経験しているアスレティックトレーナー5 名と、アスレティックトレーナーの派遣を促進している指導者2 名に対し、インタビュー形式にてデータ収集を行った。

【結果・考察】

活動を開始するにあたり、相手が高校生であることが活動先選択の理由になることは多くはなく、それ以前に活動していく上での受け皿が全体として少ないため選択の余地自体が少ない

ようだ。多くはチーム単位で契約が交わされており、報奨金は多くないため、特殊な例を除いてほとんどは掛け持ちで活動をしている。また、医科学スタッフ自身には保険が掛けられていないことが多かった。アメリカのようにスポーツ現場での事故でも訴訟問題に発展する可能性は十分に考えられるため、医科学スタッフ自身を守るプロテクターの充実は今後必要となってくるだろう。

高等学校においてメディカルサポートに対する需要は非常に高いが、スポーツ活動現場で活動するアスレティックトレーナーの認知の問題と雇用に際した資金面での問題が立ちはだかっているようだ。アメリカでは全米アスレティックトレーナー協会認定アスレティックトレーナーはアメリカ医師会に準医療従事者であると公言されており、認知度向上と権威づけがなされているため、雇用は確保されている。高等学校に限らず、日本においてアスレティックトレーナーによるスポーツ現場でのメディカルサポートを展開していく上で、このような戦略も考えていく必要があるだろう。

【今後の課題】

高等学校のスポーツ活動現場でのメディカルサポートに対する需要は高く、今後雇用を創出するためのシステムづくりが課題とされるだろう。これまでのようにチーム単位でそれぞれの医科学スタッフを雇うのではなく、学校単位で

高校生の安全を管理できるようなシステムをつくり、その中心にアスレティックトレーナーに代表される医科学スタッフを配置することが理想の形とされる。そのためにはやはり、メディカルサポート、特にアスレティックトレーナーの認知度向上と資金面における問題の解決が当面の課題となってくるだろう。課題を達成するために、文部科学省や都道府県などの上部の組織に対するアプローチ、または末端である学校内に対するアプローチが必要とさる。また、雇用に際する資金面の問題を解決していくにあたってはビジネスモデルの構築が必要となるが、現場で活動する人間にとって、その分野での精緻な作業は難しい。これらの分野で活躍する人間への理解促進と協力要請も、今後の展開していく上で重要な要素となってくるだろう。